

## 2011 年度ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS) 学内募集要項

ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS) (<http://www.japanprize.jp/siyss.html>)とは、ノーベル財団の協力でスウェーデン青年科学者連盟が毎年ノーベル賞週間行事にあわせて開催され、世界約 19 カ国から若手科学者約 25 名が集まり、交流を通じて相互啓発を図るプログラムです。

参加希望者は、ストックホルム国際青年科学セミナー応募要項(以下、セミナー応募要項)及び本募集要項を確認の上、必要書類を揃え、所属部局を通して申請ください。

※セミナー応募要項については、次の URL からダウンロード可

([http://www.japanprize.jp/siyss\\_yoko.html](http://www.japanprize.jp/siyss_yoko.html))

### 記

#### 1. 応募資格

応募要項記載の条件を満たし、申請時及び派遣時に本学の正規学生である者

#### 2. 推薦人数

本学全体で、各対象分野 1 名(計 2 名)まで

#### 3. 提出物

次の全てを提出すること

- 1) 大学入学以降全ての成績証明書 (写し)
- 2) セミナー応募要項記載の 5 点
  - ① 派遣候補者推薦書
  - ② 小論文
  - ③ 現在行っている研究内容
  - ④ TOEIC スコアシート (写し)
  - ⑤ 担当教員による推薦状

〈留意事項〉

- ①～③：国際科学技術財団指定の様式を用いること。

次の URL からダウンロード可能

[http://www.japanprize.jp/siyss\\_file\\_download.html](http://www.japanprize.jp/siyss_file_download.html)

- ①：「推薦者」及び「担当部署」欄以外はすべて記入し、写真を貼付すること
- ⑤：様式任意。ただし教員の署名及び押印は必須

4. 提出期限

平成 23 年 6 月 24 日（金） 16 : 30

上記 3.の提出書類（原本 1 部+コピー1 部）を後期課程係窓口に提出すること。

5. 学内選考

各部局から各対象分野につき 1 名（計 2 名）が国際部国際交流課まで推薦された後、国際委員会にて書類選考の上、大学として各対象分野 1 名（計 2 名）を財団法人国際科学技術財団に推薦。

6. その他

- ・ 申請の際には、所属部局における授業・試験日程を事前に確認の上、履修において不利益とならないよう注意すること
- ・ 派遣決定の際には、各自海外旅行傷害保険に加入すること。
- ・ 派遣終了後、応募要項にて記載されている依頼事項とは別に、本学国際交流課まで参加報告書（様式任意）を提出すること。この報告書は本学における本セミナーの活動を示すものとして、学内及び学外への広報等に使用する。

7. 問合せ先

国際部国際交流課 学生・研究者交流チーム

E-mail: [intex-ut@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:intex-ut@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)



2011年ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)派遣対象分野

2011年のSIYSS対象分野は2012年(第28回)日本国際賞授賞対象分野と同じ分野です。  
(以下ご参照ください)

2012年(第28回)日本国際賞授賞対象分野

領域 I: 数学、物理学、化学、工学

授賞対象分野: 「環境、エネルギー、社会基盤」

(背景、選択理由)

近年、人類の活動による資源およびエネルギーの消費拡大、環境破壊などが看過できないレベルに至ったと認識されるようになり、世界規模での対策協議が始まっています。そこでは、地球環境に大きな影響力を持つエネルギー生産や利用、物質生産、水資源対策、都市開発、運輸・交通などに関わる基盤技術の革新が改めて強く求められています。特に、生活や産業などにおける省エネルギーの推進、代替エネルギー技術の開発、資源や環境の制約の下での新しい生産技術、さらには防災安全対策など社会基盤に関する科学的発見と技術の革新が重要な課題となっています。

(対象とする業績)

2012年の日本国際賞は、「環境、エネルギー、社会基盤」の分野において、飛躍的な科学技術の発展をもたらし、環境対策技術やエネルギー技術、環境調和型の生産技術や社会基盤形成技術などの創造・革新・普及を通じて、地球環境の改善に寄与するなど、社会に大きく貢献する業績を対象とします。

領域 II: 生物学系、農学系、医学系

授賞対象分野: 「健康、医療技術」

(背景、選択理由)

過去数十年間、画像診断機器、医療関連の情報化技術、さらには遺伝子研究を基にした医療診断技術、生化学的診断手法などの科学技術の進展により、疾患や身体機能の診断精度は飛躍的に進歩しました。こうした診断技術の進歩に加え、低侵襲手術、放射線治療技術などの治療技術の革新は、多くの疾患の治癒率の向上をもたらし人類の福祉に大きく貢献しています。さらに疾患の早期発見のための診断技術の一層の進展、画期的創薬や再生医療など新しい医療分野の発展が期待されています。また、高齢化社会を迎え、健康の維持・増進や疾病予防も社会の活力維持にとって重要となっており、このような分野における科学の進展と技術開発も大いに期待されるどころです。

(対象とする業績)

2012年の日本国際賞は、「健康、医療技術」の分野において、飛躍的な科学技術の発展をもたらし、新しい診断技術や治療技術などの医療技術の創造・普及さらには健康維持・増進や疾病予防に寄与するなど、社会に大きく貢献する業績を対象とします。